

知事記者会見の概要

日 時：令和7年9月18日（木） 10:00～10:45

場 所：502会議室

出席記者：11名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から2件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 「山形新幹線米沢トンネル（仮称）整備スキーム検討会議」の設置について
- (2) 令和7年度「秋の交通安全県民運動」について

代表質問

- (1) 屋内スケート施設及び体育館・武道館の整備について

フリー質問

- (1) 代表質問に関連して
- (2) 下水道管路の全国特別重点調査結果（優先実施箇所）について
- (3) 発表事項1に関連して
- (4) アランマーレ山形の県外移転について

<幹事社：毎日・産経・YBC>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。現在、県内では大雨洪水警報、また土砂災害警戒情報、そして竜巻注意情報などがいろんな地域に出されておりますので、県民の皆様には、くれぐれも注意してくださるようお願いいたします。

それから現在、「クマ出没警報」を9月30日まで延長して、注意を呼びかけているところですが、先日、酒田市で、今年6件目となる人身被害が発生いたしました。被害に遭われた方に心からお見舞いを申し上げます。

また、今年の日撃件数は、9月14日時点で1,000件を超えました。依然として警戒が必要な状態が続いております。

県民の皆様には、改めて、山に入る際や農作業の際、また、クマの日撃情報があったところでは、音が出るものを携行すること、クマの活動が活発になる早朝や夜間は特に注意することなど、お一人おひとりが身を守る行動を取っていただきますようお願いいたします。

なお、本日、県の関係各課による「第2回総合クマ対策推進チーム会議」を開催して、クマによる事故防止に向けて連携強化を図るとともに、対策の強化を検討することとしております。報道機関の皆様には、ぜひ取材をしていただき、県民の皆様への周知に御協力くださるようお願いいたします。

☆発表事項

知事

ここで私から発表が2点ございます。

まず1点目ですけれども、「山形新幹線米沢トンネル（仮称）整備スキーム検討会議」を設置しましたので、お知らせをいたします。

山形新幹線米沢トンネル（仮称）につきましては、昨年度まで、県とJR東日本とが共同で地質調査を実施し、想定しているルートから大幅な計画変更の必要性はないことを確認しております。事業化に必要な調査は終了しております。JR東日本で、事業費と工期の再算出を行いましたところ、事業費は約2,300億円、工期は着工から約19年となっております。今後の事業化に向けては、整備スキームについて関係者間で合意をする必要があります。

この間、政府では、いわゆる「骨太の方針2025」におきまして、「幹線鉄道の高機能化に関する調査や方向性も含めた検討など、更なる取組を進める」との方針を示すなど、幹線鉄道の高機能化を検討する動きがあるところです。

こうした状況を受けまして、米沢トンネル（仮称）の早期の事業化を実現するために、整備主体、費用負担、必要な政府の予算・税制・制度などの整備スキームについて、どのような方法が考えられるのか検討を行うために検討会議を設置いたします。

検討会議の名称は、「山形新幹線米沢トンネル（仮称）整備スキーム検討会議」といたしま

す。森地東京大学政策研究大学院大学名誉教授を座長とし、国土交通省から足立大臣官房審議官、JR東日本から伊藤代表取締役副社長、そして本県から折原副知事が参加することとしております。

今後のスケジュールは、まずは第1回検討会議を10月に開催し、今年度内に一定のとりまとめを目指してまいります。

この会議を通して米沢トンネル（仮称）整備を実現するために必要な整備スキームについて関係者間で合意した上で、それぞれが必要な取組みを進めていくこととなります。この会議は米沢トンネル（仮称）整備に向けて大きな一歩を踏み出すものと考えており、早期の事業化実現につなげてまいります。

もう1点は、交通安全県民運動です。

9月21日から30日までの10日間、「秋の交通安全県民運動」を実施いたします。

県内における昨日現在の交通事故における犠牲者数は、対前年同期比で5人減の13人となっております。

このうち、年齢別では65歳以上の高齢者が10人と約7割を占めており、状態別では、歩行者が6人と最も多くなっております。

これから日没が早まる秋は、例年、夕暮れ時から夜間にかけての交通事故が増える傾向にあります。

このような状況を踏まえ、この度の運動では「歩行者の安全な道路横断方法等の実践と反射材用品や明るい目立つ色の衣服の着用促進」をはじめ3項目を重点に掲げ、高齢者が関わる交通事故の防止や歩行者の安全確保に向けた各種運動を展開してまいります。

運動期間中、県では、各市町村や関係機関・団体等と連携しながら、早めのライト点灯の推進、飲酒運転撲滅、ヘルメットの着用促進などに取り組んでまいりますので、皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

山形放送の中川です。おはようございます。よろしくお願いいたします。

まずは、県と山形市が共同で整備を検討している屋内スケート施設、そして体育館・武道館について、先月と今月に開かれた有識者会議で出た意見への受け止めをお願いします。

また、その際に、スピード感を持った検討を要望するといった意見もありました。今後の予定について、現時点でのお考えをお聞かせください。お願いします。

知事

はい、ではお答えいたします。

山形県と山形市は、昨年10月の合意に基づき、県による多機能性を有する屋内スケート施設と、山形市による体育館・武道館機能を有する地域住民のためのスポーツ施設について、共同で有識者会議を設置し、検討を進めているところであります。

先月8月4日の検討会議では、県の屋内スケート施設の「固定席数」と「サブリンク」についての方向性をお示ししました。

具体的には、「固定席は500席から1,500席程度とし、施設レイアウトなど今後の技術的な検討の中で精査をしていく」、「県民のウェルビーイングの向上を目指し、多様なニーズに応えられる、サブリンクを有する施設とする」というものであります。

委員の皆様方からは、県の考え方に肯定的な御意見をいただき、おおむね御理解を得られたものと受け止めております。

このほか、交流人口拡大への期待や建設費高騰への懸念など、様々な御意見も頂戴しており、こうした御意見を踏まえながら、引き続き丁寧に検討を進めてまいりたいと考えております。

また、今月9月5日の検討会議では、山形市から、体育館・武道館機能を有する地域住民のためのスポーツ施設の規模間のイメージが示されました。

委員の皆様方からは、主として利用者ニーズや大会需要についての検討を求める御意見があったと担当部局から報告を受けております。こうした御意見を踏まえ、引き続き山形市において検討が進められていくものと認識しております。

会議ではこのほか、共通して「立地も含め、ロードマップを明らかにし、スピード感を持って検討を進めてほしい」との声があったとお聞きをしております。

今後は、専門事業者による技術的な支援を受けながら、施設の規模やレイアウトなど、より具体的な検討に着手する予定であります。立地も含めた諸条件を一定程度整理できれば、整備に向けたロードマップをお示しできる段階になるものと考えております。

☆フリー質問

記者

おはようございます。山形新聞、稲村です。

今の代表質問に絡んでなんですが、改めて屋内スケート施設のほうの必要性について、知事のお考えを改めてお聞きできればと思います。

知事

はい。何と言いましてもですね、屋内スケート施設、これが無い県というのは、東日本で唯一山形県のみというふうに聞いております。スケートは、もちろんフィギュアスケートもあれば、カーリングもあれば、またアイスホッケー、様々なスケート競技あるわけですが、屋内スケート施設が無いということで、そういった競技を楽しんだり、また競技に取り組む方々にとっては、県外まで練習に行ったりですね、大変、ご不便をおかけしております。

す。そういったことを考えまして、県民の皆様のウェルビーイングということを考え、やはり県内に必要だということで、県として取り組むこととしたものであります。

記者

ありがとうございます。

記者

読売新聞の仲條です。よろしくお願いいたします。

先ほどの代表質問と山形新聞さんの質問にも多少重なるかと思うんですけども、知事の屋内スポーツ施設の整備に関しての基本的なお考えをお伺いしたいんですけども。

今、検討会議が進んでいる状況かと思います。一方でですね、プロスポーツチームからは、モンテ（モンテディオ山形）は置いておいてですね、アランマーレ（アランマーレ山形）さんは出ちゃいましたけど、バスケットのチーム（補足：「山形ワイヴェンズ」のことを指す。）からは、アリーナの建設の要望というのが出ている状況かと思います。屋内スポーツ施設ですね、整備しようと思うと相当な事業規模になるのは誰が見ても明らかなことで、数十年に一度ぐらいしかそういう機会っていうのはなかなかないのかなと思うんですけども、プロスポーツチーム側からの要望というものもある中で、屋内スポーツ施設の整備というのも、今、検討している中ですけども、知事としてはその兼ね合いというのは、どういうふうにお考えになってらっしゃるのかという。

知事

そうですね、そもそもがスケートの屋内施設が東日本で山形県にだけ無いというようなところから始まっておりまして、屋外スケート場については山形市が、そして屋内スケート施設については山形県が整備するということで、ずっと進んできております。

そして、プロスポーツということを考えた場合はですね、サッカーとバスケットボールとバレーボールと、バレーボールが秋田へ、ということになったようで大変残念ですけども、ただ、ずっと3つを擁している県として、県が全部というわけにはもちろんいきませんし、1つについても何百億というようなことになるわけでございます。県としては、やはり、プロスポーツというよりは、県民の皆さんのためのスポーツ施設ということで、ずっとやってきておりまして、しかも市町村に対する支援というものを行いながらですけども、県内でただ1つの施設については県側というようなことで進めてきております。

それと、プロスポーツとなると、先ほど申し上げたサッカー、バスケ、バレーボールというものがある中で、サッカーがですね、天童市さんが大変熱心に力を入れておられまして、今度、サッカースタジアムというものに着手、着々と進むことになるかと思いますけど、それについては、市町村である天童市さんが支援をし、そこに対して山形県も支援をするということになっております。

バスケットボールに関しても、やはり、市町村主体で応援してくれるというようなことになるとですね、県もそこに支援をするということになるのではないかと、というふうに思っております。

記者

すいません。もう1点だけ補足ですが。

モンテのスタジアムについては天童市さんが誘致をしたような格好で整備というのは進んでいて、今まさに佳境を迎えているわけですが、バスケの本拠地、アリーナに関してはちょっとサッカースタジアムに比べると、まだまだ機運というか、市民からのそういう要望ですとか、ブースター（補足：バスケットボールチームのファンの意。）からの要望含めて、機運のほうが、まだ盛り上がりがサッカーに比べるとちょっといまいち欠けるんじゃないかな、というような感覚も、私、持っているんですけれども、知事としては所在する市町村さんのほうで、まずは「ここに造りたいので県のほうにもご支援いただけないでしょうか」という立て付けで進める形が望ましいのではないかと、というふうにお考えということですか。

知事

そうですね。

バレーボールについては、酒田市さんが断念をしたという経緯がございましたし、やはり市町村単位というのは非常に大事な、というふうに思っております。県はそこに対して支援をするという形になるかと思っております。

記者

NHKの内藤と申します。よろしくお願いします。

埼玉県の八潮市で起きた道路陥没を受けて実施された下水道管の調査結果が、昨日明らかになりまして、山形県内ではですね、「緊急度Ⅰ」という、1年以内の速やかな対応が必要とされる下水道管がおよそ2.7kmに上りまして、東北地方では最も長くなりました。

今後、どのように対応されていかれるかということと、例えば対策を実施するにあたって財政的な面ですとか、技術的な面でどういった課題があるのか、国に何か支援を要望していくお考えがあるのかといった点についてちょっとお伺いできればと思います。

知事

はい。現時点ですと、受け止めと対策ということについてお話ししたいと思います。

今回の調査での結果、「緊急度Ⅰ」の要対策延長が約2.7キロメートルあったことにつきまして、重く受け止めているところです。

今回の調査は、埼玉県八潮市における道路陥没事故を受けてのものであります。改めて、お亡くなりになられたドライバーの方に哀悼の意を表しますとともに、下水道という見えな

いインフラが破損した場合の影響の大きさというものを身に染みて感じたところであります。

下水道は県民生活にとって重要なインフラでありますので、早急に対策を講じてまいります。

まずは、「緊急度Ⅰ」と判定された区間について、速やかに対策工事を実施できるよう、工事の工法を検討する調査設計を開始いたします。

また、「5年以内に対策を実施」とされている、「緊急度Ⅱ」の区間も含めて、対策工事を実施するまでの間、下水道管路施設の巡視点検を、月1回だったのを2回に頻度を上げます。

そして、道路管理者に対して、道路パトロールで重点的に監視していただくよう要請しております。

なお、今回の調査では、本県では空洞は確認されておりませんので、直ちに陥没が起きる可能性は低いと考えておりますが、変状が認められた際に速やかに対応できるよう、道路管理者との連絡体制を構築し、県民の安全・安心確保にしっかりと取り組んでまいります。

記者

対策を実施するにあたって、何か国に財政的な支援とか技術的な支援を求めたりといったところはあったりされるのでしょうか。

知事

はい。昨日、そういう調査結果というものを知りまして、財政的にどうしていくというような課題があるかというようなことについては、これから担当との話になると思います。

記者

共同通信の中村です。

米沢トンネルの整備スキーム検討会議についてお伺いしていくんですけども、こういう会議ができて、いよいよ具体的なスキームの検討が始まるのかなという印象を受けたんですけども、今回、この会議を設置した意義とか目的を知事がどういうふうに考えてるか、お伺いしたいです。

知事

はい。もちろんですね、これまでいろいろ調査してですね、順調に進んできているけれども、これからどうするかという、まさにそういった「狭間」といったら言葉がちょっと当たらないかもしれませんが、まず、これからいろいろ具体化していかなきゃいけないという、そういう段階だと思っておりますので、やはり県としてですね、こうした検討委員会、整備スキーム検討会議というものを設置して、ここにはそうそうたる関係者の皆様に入っていていただいております、有識者でありましたり、国交省、また、JR東日本、本県からは折原副知事ということで、やはりしっかりと整備スキームについて前に進めていく、そのことが

事業化に、とにかく早期に着手したいという思いがありますので、ここをしっかりと取り組んでいくことが一番大事なのかなというふうに思った次第であります。

記者

今年度内に一定の取りまとめというのがあるんですけど、ある程度結論が出た、というのがスキームの合意ってことになるんですかね。つまり、お伺いしたいのは、この取りまとめられたものがどうなるかっていうのをお伺いしたいんですけど、ある程度この会議で結論が出ると、国とJRと県、県内自治体でスキームについてある程度合意ができたっていうことになるのでしょうか。

知事

はい。政府も含めて、申し上げたようにですね、早期の事業化を実現するためには整備主体、費用負担、そして、必要な政府の予算・税制制度といった、そのことが整備スキームということになるんですけど、どのような方法が考えられるかまだ分かりませんが、本当にいろんな方法が考えられるんじゃないかと思いますので、関係者間でしっかりと様々な方法をですね、出し合って、着手に向けてしっかりと前に進めていきたいというふうに思っております。

記者

朝日新聞、斎藤です。

私も米沢トンネルの検討会議について伺いたいと思います。

ちょっと素人的な質問ですけども、今年度内に一定の取りまとめを目指すということで、今年度に取りまとめが行われたら、来年度はもう、すぐに着工というわけではなくて、いろんな、まだ課題はあると思うんですけども、いつぐらいに着工できれば望ましいかというのは、知事としてはお考えありますでしょうか。

知事

もう、私としては本当に「1日も早く」という思いでありますけど、ただ、気持ちだけ焦っても何にもなりません。

やはりしっかりと、先ほど申し上げたですね、費用負担ですとか、予算の税制制度とか、様々なそういったところをクリアしなきゃいけないということがありますので、知恵を出し合って、検討会議で何とか具体化してもらえたらなというふうに思っています。

今年度内に目指すということで、本当はかなり力を入れて考えておりますけれども、今年度内に取りまとめを目指して、そしてどうするか。すぐ着工なのか、ということについては、今の時点では何も申し上げられないです。

もう、本当にビッグプロジェクトなものですから、2,300億円とかですね、19年というふう

に、大変大きなプロジェクトであります。やはり予算化というようなものも必要でありますし、本当に大きな、なんとも、県だけでできることではありません。JR東日本主体でありますし、また、政府からの助成といいますか、そういったことも大変重要であるというふうに考えておりますし、自治体としてもできる限りのことをしてまいりたいというふうに思います。

ただ、本県の未来のためには、やはり何としてもここは、岩盤を崩してでもしっかりと実行していただきたいと。具体化に向けて、私としては「1日も早く」という思いでありますけれども、本当に大きなプロジェクトでありますので、まず、関係者間でしっかりと合意をして、そこがプロジェクトの土台となりますので、そこができあがれば、そこからどうっと進んでいけるというふうに思っています。いつから着手とか、そういうところまではちょっと現時点でなんとも言えないところであります。

記者

ありがとうございます。

改めてにはなりますけど、米沢トンネル（仮称）の目的といいますか。山形県にとってどんなメリットあるかということ、改めてですがお願いします。

知事

はい。具体的に申し上げますと、新幹線ではないんですけれども「山形新幹線」、ミニ新幹線であります。これが本県と首都圏とを繋ぐ、本当に大動脈であります。

道路も大事でありますけども、この鉄道というものですね、大量性・安定性ということと、速達性も含めて、やはり本当に大きな大動脈だというふうに思っています。

今年の6月から7月、8月にかけて大規模な直通の運休がありましたけれども、あのときの影響の大きさを考えるとですね、本当に山形県は山と海に囲まれた県でありますので、しっかりとトンネルを造って、掘ってですね、そしてあそこがとにかく運休の多い箇所であります。山岳区間でありますので、あそこをしっかりとトンネルを抜くことで、非常に安定した運行ができるようになると思います。ということは、ビジネスでありましたり、観光でありましたり、様々な面で山形県にとって大変大きなメリットをもたらすというふうに思っています。

そういうことで県内全域に波及すると思いますし、山形県の未来を拓く希望のトンネルだと私は申し上げてきております。山形県の未来のために、本当に住民の、県民の皆さんの未来のために、何としてもしっかりと着手をして、そしてトンネルを通して首都圏との大動脈をさらに太いものにしていきたい。

心理的距離を短くするというのが非常に大事だと思いますね。今2時間半とか2時間40分かかっているのですけれども、1時間台というようなことになると、2時間台と1時間台という全然違いますので、1時間台で行けるというようなことになると、「山形、近いんだな」ということで気軽にですね、来ていただけるようになるし、県民もまた、ここに住ん

で、そしてどこにでも行けるということになりますので、やはり山形県の将来のためには非常に有効な、重要なトンネルだというふうに考えております。

記者

ありがとうございます。

もう1点だけお願いします。9月13日に、知事、政治資金パーティーを催されまして、そこで小西美術工藝社のデービッド・アトキンソンさんが講演されました。その中で、観光についてですけれども、東京からの距離というものが逆に強みになるというふうなお話がありました。つまり、距離が近すぎると日帰りになってしまうけれども、滞在型観光でより多くのお金を落としてくれるということで、東京からの距離は逆に強みであるというふうなことをおっしゃっていたと思います。この米沢トンネルとも関係するかと思うのですが、このデービッド・アトキンソンさんの主張については、知事はどういうふうに聞かれたのでしょうか。

知事

そうですね。正直言って「おや？」と思いました。ただ、距離が遠すぎるとまず来てもらえないというのがありますので、1時間台と言っても、2時間に限りなく近い時間になるかと思っておりますので、近いと言ってもそんなに近いというわけではない。心理的距離は近くなるけれど、距離はあまり変わらないのではないかと私は思っています。ですから、山形市まで来て何かちょっと用を足して帰るというのであれば日帰りも可能なんですけれども、たとえばそこから蔵王に行く、銀山温泉に行く、また出羽三山に行くなどとなると、ちょっと日帰りは難しいですね。

また、朝もぎさくらんぼが一番美味しいと言っていますけど、そういった体験をするにも、泊まらないと体験できないことがあります。庄内に行くにもやはり時間がかかります。ということで、そういった意味で私は大丈夫なんじゃないかなというふうに思いました。デービッド・アトキンソンさんのご指摘も当たっていると思うのですが、山形県はすごく広い県でありますので、その県内で様々な観光地でありましたり、体験といったことをしていただくには、やはり泊まらないとできないというふうに思っていますので、そのところはあまり心配しておりません。

記者

おはようございます。テレビユー山形の倉内と申します。よろしくお願いします。

すいません、先週の知事会見、弊社欠席してしまった関係で、改めてお聞きすることになって恐縮なのですが、アランマーレ山形の県外移転について、秋田に本拠地を移すということで、10年近く山形で活躍していたプロスポーツチーム3つのうち1つが移転してしまうということは、私もそうですし、県民にとっても大きなショックかなと思いました。知事も先週の

会見で、それ以前にですね、コメントを出されていたかと思うのですが、改めて、今回の本拠地移転についてのお気持ちをお聞かせいただけますでしょうか。

知事

そうですね、アランマーレが1部リーグと言いますか、本当に大活躍をしてくれたわけでありまして、山形県内を本拠地としてこれまで活動してくれました。秋田県に本拠地を移すというようなことをお聞きしたときには、大変残念に思ったところであります。ただ酒田市さんでも、体育館施設についてはちょっと断念をされましたし、大変残念ではありますが、こういうことになりました。

県にも挨拶に来てくださったのですけれども、その時は副知事が対応してくれました。

やはりですね、これからも山形県内、特に庄内地域で活動していたものですから、そういったことを大切にしていきたいというようなことを申し上げたところであります。

その後のアランマーレさんの報道されている内容でですね、やはり、庄内での活動というものも続けていただけたということでありまして、ふるさと、生まれ育ったところとして大切にしていくということであったと思いますので、これからもですね、ずっと山形県庄内地域での活動というものを継続していただきたいと思っておりますし、私たちもそれを応援していきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。やはり、もともとは酒田市が新施設を整備するための費用の工面ができなかったということで断念したというのが、まず根底にはあると思うのですが、やはりどうしても費用の壁というのはどうしてもぶち当たるものなのかなと思ってはいるのですが、先ほどの他社さんの質問にもありましたけれども、モンテディオ山形の新スタジアムは着々と着工の準備が進んで、一方でもう一つのプロスポーツチームのワイヴェンズも自前のアリーナ、トップリーグを目指すためには自前のアリーナの建設が必須だということで、今建設を目指しているところだとは思っているのですけれども、改めてにはなるのですが、そういった県内のプロスポーツチームと県とが向き合っていくために費用面で工面できること、県として支援できることというのは、現時点で何かお考えでしょうか。

知事

はい、プロチームを応援していくということに変わりはありません。やはり、スポーツ観戦ということで、アマチュアであってもプロであっても、県民はですね、文化はもちろんスポーツからも大変、元気と活力をもらっているというふうに思います。県内出身の選手が昨日も来てくれましたけれども、いろいろな檜舞台で活躍するということを、みんな楽しみにしているし応援もしております。プロスポーツも同じでありますけれども、そのプロ仕様のアリーナでありましたり、様々な施設は本当に莫大なお金がかかりますので、やはり県がす

べてをしてあげられるということではないというふうに思っています。

本当に限られた財政の中で、福祉・医療、また道路でありましたり、様々なこと、ありとあらゆることに取り組んでいかなければならないという中でですね、プロはやはり、たとえばプロ野球を見ればスポンサーというものがしっかりと支えてくれていますし、そういったスポンサーというものがすごく大事なのかなというふうに私は思っています。

そういったことでしっかりしたスポンサーが付いてですね、発展してくれるといいなというふうに思っています。それを市町村ができる限りの支援をするということになった場合ですね、本拠地となる市町村ですけれども、そこに対して県はできる限りの支援をしていくということになると思っております。

記者

河北新報の八木と申します。よろしくお願いします。

先ほども何点か米沢トンネルのスキームの検討会議の質問が出たと思うのですが、その関連で質問させていただきたいのですが、このスケジュール感の話でですね、今年度内に一定の取りまとめを目指すという、そういうお話だったと思うのですが、整備スキーム、私も素人的な考えで恐縮なのですが、何パターンか考えられるのかなというふうに思うのですが、イメージというのは、その中から1つ決めるというような、そういう流れになるのかどうかというところで、いかがですかね。

知事

ちょっとそこまでは現時点で何とも言えないところであります。これから始まりますし、目指すとしているわけでありますので、そこがどうなのかもちょっと分からないですね、まず第1回検討会議をやるということでありますので、そこにまずは期待したいというふうに思っています。

記者

それだと、じゃあ取りまとめというのが具体的にどうなるのかというのは会議の中で決まっていくような、そういう流れになっていくという認識でよろしいのですかね。

知事

そうですね、できる限りやはり、そういった様々なスキーム、整備スキームというところをしっかりと議論し合って、関係者間で合意をしていくというところが一番大事かというふうに思います。

記者

さくらんぼテレビの伊セです。よろしくお願いします。話が戻ってしまって恐縮なのです

が、改めて道路陥没について質問させてください。よろしいでしょうか。

2つほどあるのですけれども、1つは「緊急度Ⅰ」ということで1年以内の速やかな対応が必要ということですが、これ、知事の所感で構いませんので、1年以内で可能なかどうかどうお考えでしょうか。

知事

対策の期間ですか？そこまではちょっと担当とまだ話をしておりませんので、聞いてみたいと思います、後ほど。

記者

分かりました。あと、「緊急度Ⅰ」の道路があるということで、県民なども不安を覚えていると思いますが、例えば「緊急度Ⅰ」がありましたということを県民に呼びかけるとか、付近住民の方に説明会を開くとか、何か検討しているものはありますか。

知事

いえ、まだ、速やかに対策工事を実施できるように、工事の工法を検討する調査・設計を開始するということでもありますので、並行してその近辺の住民の皆さんにどういうふうにしていくとかですね、そういったことまではまだちょっと、担当のほうで今、検討しているところなのかなと思います。